

広報ふたば

双葉郡小学校長会
第108号
者長一
任会一
責長秀
行学校崎
発小学岩

|| 双葉郡小学校長会会長あいさつ ||

双葉の教育の新たな第一歩



双葉郡小学校長会会長
富岡町立富岡第一小学校長
岩崎 秀一

東日本大震災及び原子力発電所事故から八年が過ぎました。双葉郡では、浪江町の四つの小学校が休校となり、学校数は十、四校になりました。そのうち、三校は校長が兼務することになり、十一名の校長で今年度がスタートしました。

今年度は、次期学習指導要領先行実施の年であり、従来からの課題とともに、新たな課題や内容に対して取り組むことになっています。その中で、対応状況について情報収集や情報交換を行い、各学校の実態に応じたカリキュラムマネジメントの仕組みづくりや教職員の意識改革、業務改善を推進しなければなりません。

双葉地区は、避難先で継続している学校と地元で再開した学校があり、児童数や教職員配置数を含めた教育環境が大きく異

岩崎 秀一

なります。そのため、支会校長会と各校長、県教育委員会や町村教育委員会がお互いに連携を図り、新たな地域づくりと連動した「ひと・もの・こと」の再構築も図らなければなりません。「〇〇だからできない」と考えるのではなく、「どうしたらできるか」を考える校長及び支会校長会にしていきたいと思っております。

富岡町の小中学校は、三春校と富岡校に分かれて教育活動を行っています。しかし、どちらも富岡町にとって大切な子どもたちです。「富岡は一つ」を合い言葉に試行錯誤しながら教育活動を行っています。

この行事なら一緒に取り組んだ方が教育効果が上がります。よし一緒にやろう。でもいつも一緒に活動することは難しい。ならばどうするか。遠隔システムを



【9年ぶりに地元に戻って開催した幼小中運動会】

使った「ライブ授業」を行って、少人数の弱点を補おう。同学年の交流も子どもたちの成長にとって大切だ。ならばどうするか。近隣の小学校に行つて合同授業を行おう。三春校は三春町の小学校と交流しよう。自校の実態を見つめ、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を明確にして様々な教育活動を創り出していくことが双葉の教育には必要です。震災後、初めて「双葉郡小学校教員研修会」を開催します。双葉地区の教員だからこその悩みや指導の困難さ。極少人数だからこそできる教育活動。地元で再開した学校と避難先で再開している学校が近隣校とどのような連携を図っていくか等、積極的に意見交換をする場です。この研修会が、双葉の教育の新たな第一歩になることを期待してやみません。

双葉郡小学校長会 令和元年度組織

会長 岩崎 秀一 (富岡一小)

副会長 泉田 淳 (双葉南小)

総務 堀本晋一郎 (檜葉南小)

経理 堀本晋一郎 (檜葉南小)

監事 井戸川 浩 (広野小)

木村 裕之 (浪江小)

松本美穂子 (双葉北小)

行財政部

○馬場 隆一 (なみえ創成小)

○岩崎 秀一 (富岡一小)

○堀本晋一郎 (檜葉南小)

研究部

○遠藤 裕一 (葛尾小)

○泉田 淳 (双葉南小)

○草野 収 (川内小)

○馬場 隆一 (なみえ創成小)
他 全員所属

生徒指導部

○草野 収 (川内小)

○木村 裕之 (浪江小)

広報部

○渡邊かおり (富岡二小)

○松本美穂子 (双葉北小)

小学校教育研究会等 双葉地区会組織

会長 阿部 裕美 (熊町小)

副会長 草野 収 (川内小)

監事 堀本晋一郎 (檜葉南小)

事務局長 井戸川 浩 (広野小)

会計 木村 裕之 (浪江小)

【専門部長】

国語 泉田 淳 (双葉南小)

社会 木村 裕之 (浪江小)

算数 堀本晋一郎 (檜葉南小)

理科 馬場 隆一 (なみえ創成小)

生総 遠藤 裕一 (葛尾小)

音楽 渡邊かおり (富岡二小)

図工 草野 収 (川内小)

家庭 松本美穂子 (双葉北小)

体育 佐藤 大志 (双葉南小)

道徳 井戸川 浩 (広野小)

特活 星 輝伸 (檜葉北小)

* 福島県小教研図画工作部会が10月10日(木)川内村いわたの里体験交流館で開催されます。双葉郡の復興状況を知る機会でもあります。多くの方のご参加をお待ちしています。

双葉郡の小学校 「現状」

東日本震災と原子力発電所事故から約八年四ヶ月。

廃炉作業や除染などの復興が少しずつ進み、令和時代の幕開けとともに、全町避難の続いていた大熊町で、帰町の一步が踏み出されました。

双葉郡にあった十七の小学校。「おかえり」と地域の人々の大歓迎を受けて地元の新設・再開された学校がある一方、学校の再開が難しく今年度から休校となった学校、現在も避難先での再開を継続している学校もあります。

また、在籍児童の急激な減少や他市町村からの遠距離通学、不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。

双葉郡小学校校長会では、そんな現状を多くの方々に伝えていくとともに、児童一人一人が将来への夢と希望を持ち、地域の復興に向けた参画者となるよう「ふるさとの人・もの・こと」とふれ合うための様々な取組を行っています。

◎新設・地元再開校 ○避難再開校 ◇休校

【大熊町】

- ◎熊町小学校 児童数7名
- ◎大野小学校 児童数5名
- ※計12名
- 2校合同での学校生活



[平成23年4月 会津若松市立旧河東三小校舎で再開]

【浪江町】

- 浪江小学校 児童数1名
- 津島小学校 児童数1名
- ※計2名
- 2校合同での学校生活



[平成23年8月/平成26年4月 二本松市立旧下川崎小校舎で再開]

◎なみえ創成小学校 児童数14名



[平成30年4月 旧浪江東中学校舎に新設]

平成31年3月31日休校
◇幾世橋小学校 ◇請戸小学校
◇大堀小学校 ◇苺野小学校

【葛尾村】

◎葛尾小学校 児童数7名



[平成30年4月 元の校舎で再開]

【富岡町】

- ◎富岡第一小学校 (富岡校) 児童数11名
- ◎富岡第二小学校 (富岡校) 児童数5名
- ※計16名
- 2校合同での学校生活
- 富岡第一小学校 (三春校) 児童数5名
- 富岡第二小学校 (三春校) 児童数4名
- ※計9名
- 2校合同での学校生活



[平成30年4月 富岡一中校舎で再開]



[平成23年9月 三春町曙プレーキ工場社屋跡で再開]

(令和元年5月1日現在)



【楢葉町】

- ◎楢葉南小学校 児童数37名
- ◎楢葉北小学校 児童数45名
- ※計82名
- 2校合同での学校生活



[平成29年4月 楢葉中校舎で再開]

【広野町】

- ◎広野小学校 児童数161名



[平成24年8月 元の校舎で再開]

【川内村】

◎川内小学校 児童数39名



[平成24年4月 元の校舎で再開]

【双葉町】

- 双葉南小学校 児童数16名
- 双葉北小学校 児童数19名
- ※計35名
- 2校合同での学校生活



[平成26年4月 いわき市錦町の仮校舎で再開]

＝編集後記＝

令和：新年号には多くの希望と新しい時代の幕開けを感じます。日本の地図や年表に、福島県双葉郡という地域がしっかりと刻まれ、次の時代に引き継がれていくよう「復興」とともに「未来への創造」があることを祈ります。そんな双葉郡の現状を校長の視点から少しでも届けられたら幸いです。

広報「ふたば」も多くの方の助けにより発行することができました。ご寄稿いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

双葉郡の児童数の推移 (単位:人)

町村名	浪江町																葛尾村	双葉町		大熊町	富岡町		川内村	楢葉町		広野町	合計
	浪江	幾世橋	請戸	大堀	刈野	津島	創成	双葉南	双葉北	熊町	大野	富岡一	富岡二	川内	楢葉南	楢葉北		広野									
2010.4.1 震災前	558	122	93	157	174	58	68	192	152	333	423	415	521	112	158	274	311	4121									
2011.8.31 震災直後	30	臨時休業	臨時休業	臨時休業	臨時休業	0	0	0	0	149	222	19	26	53	0	0	65	562									
2019.4.1 現在	1	休校	休校	休校	休校	1	14	7	16	19	7	5	16	9	39	37	45	161	375								